

中国巨大市場における事業展望

IHI (Shanghai) Management Co., Ltd. 董事長
菅沼 禎郎

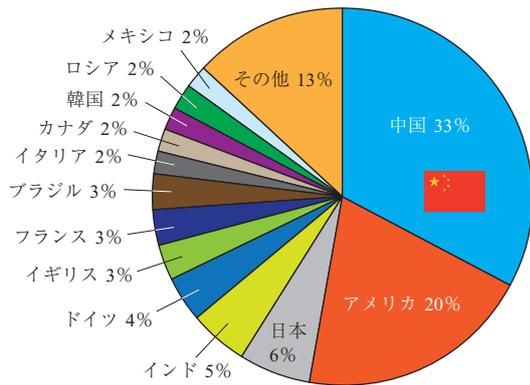
IHI の（現）中国地域での拠点は、1960年に設立された石川島播磨重工業香港事務所からスタートして、その後1986年に北京、1996年上海へと中国本土にも事務所を構え、それらが2011年には石川島（上海）管理有限公司（IHI (Shanghai) Management Co., Ltd. : ICL）という現地法人に統合される形で現在に至っています。

1972年の日中国交正常化以降、武漢／宝山鋼鉄向けの製鉄プラント、北侖発電所、ほか向けのボイラ設備、そのほか産業機械などを主体にさまざまな設備を納入してきました。IHIとしての国際ビジネスの成り立ちが、“日本からの輸出プラス現地合作ベース”から、2000年以降は“地産地消、M&Aによる事業領域拡大ベース”に移行しました。現在ICLは、自社を含め計15社の現地法人を束ねる地域統括会社として機能し、車両過給器事業、回転機械事業、農業機械事業、熱・表面処理事業、駐車場事業、シールドほか社会基盤事業、原動機・プロセスプラント事業などの発展に向け、営業、調達、市場情報収集・発信などの活動を続けています。

大市場としての中国

中国の国土面積は960万km²と（ウラル以西の）欧州と同規模ながら、人口は現在約14億人と欧州の約2.7倍の大国です。1978年にそれ以前の鎖国に近い状態から改革開放へと大転換を行い、2001年のWTO（世界貿易機関）加盟を機にその後急速な経済発展を続け、“世界の工場”から現在では“世界の市場”として経済的地位を高めるとともに、政治的発言力も年々増してきています。

自動車産業を例に挙げれば、新車販売台数は今後とも世界最多のポジションを継続するであろうし、それらを含めた2018年のGDP総額は13兆米ドルで、アメリカの20兆米ドルに次ぐ世界第2位（第3位の日本は5兆米ドル）で、2020年代の後半にはアメリカのGDPをしのぐものと見なされています。“社会主義市場経済”と呼ばれる国家主導のマクロコントロールと、一期で5年、通常10年周期の安定した政治体制が計画的な発展を支えている。近年話題の「中国製造2025」を例にとっても、2025年、2035年、2049年



2018年国別自動車新車販売割合 (Global Car & LCV Sales by Region 2018 のデータをもとに作成)



オゾン微細気泡水処理デモプラント

の達成目標がおのおの明示され、「中国の夢」「中華民族の偉大なる復興」というスローガンの下、世界強国への歩みを続けています。

かつて急激な経済発展を優先したために発生した問題への対処も進んでいます。深刻な環境汚染は、習近平政権となってから大気、水、土壌のそれぞれに関する汚染対策行動計画が発表され、各地方政府首長の達成すべきノルマとして環境指標が課され、改善が続けられています。

ブームに乗った重複投資による過剰生産の問題も、特に深刻であった石炭、鉄鋼、アルミなどの分野で顕著な改善成果が出ています。

品質は二の次で安価な製品を供給してきた産業インフラも、かつてのようなイニシャルコストのみが目目されていた時代とは異なる。ライフサイクルコストや製品品質のレベルにより評価される度合いが高まってきており、IHIグループのビジネスにとっても追い風となることが期待されます。

新しいビジネス

中国には、官主導であれ、民間主導であれ、世界有数のイノベーション拠点が多数存在し、IHIとしても、中国で五指に入る名門大学である清華大学、上海交通大学ほかと20年近くにわたる共同・委託研究を継続しています。現在では日本より圧倒的に進んでいるとまでいわれる中国のIT技術やAI技術を活用し、日本人のモノづくりや品質に求める厳しさをデータ化して、人に頼らない形で品質を保証し、RT-AI装置（LNGタンク溶接部のX線検査のAIによる自動判定装置）

について間もなく形にできるところまでできています。また清華大学の技術とIHIグループの水処理の技術を掛け合わせたオゾン微細気泡水処理施設・サービスは、デモプラントによる実証試験で良好な結果を出しており、今後、中国の環境問題改善の一助となるよう取り組んでいます。走りながら考える風土をもつ中国ならではのスピード感をもって、これらの実ビジネス化に取り組んでまいります。

ICLとして注力していくこと

ICLはIHIグループ中国域内事業の発展のために寄与することと、新しい技術、新しいビジネスの可能性を模索し、同時にこの大国ならではのさまざまな顕在・潜在リスクを注視し、常に発信し、グループ事業のベクトルを正しい向きに方向付ける役割を担っています。Win-Winという言葉は中国でも良く使われますが、これからビジネスの仕組みそのものを中国企業と共につくる新事業においては、特にその実現が十分に可能です。

今後、数十年間も世界最大の市場であり続けると考えられるこの国に向けて、IHIグループの技術を展開し続け、より多くの製品や事業を創出することがICLとしての命題です。



RT-AI装置